

大気は言う、現在の地球温暖化よりももっと暑い時代もあったので驚かないけど、あまりの急上昇で人類は大慌てだね。川は言う、水質汚染がひどくて浄化しきれないけど、その水を使うのも人類だからな。土は言う、長い年月かけて育ててきた土も3割は農地などで荒廃して豊かさが失われ、農民が困窮しているね。海は言う、陸からの養分で海の魚が育ってきたが、最近はプラスチックが大量に流入したり温暖化もあって魚が捕れなくなっているようだね。ゾウやライオンなどの動物たちが言う、僕らも狩猟などでうんと少なくなったけど、日本ではオオカミが絶滅したので最近はシカやイノシシが増えて山村では本当に困っているね。小さな虫たちが言う、農薬などで虫がいなくなって果樹の受粉ができないし、土の中の虫たちがいなくなれば落ち葉の分解も進まなくて土が悪くなるよ。キノコなどの菌類が言う、地下に菌と根のネットワークを創りあげて植物たちの養分吸収を助けているけど今や生態系全体が劣化し、弱ってきているね。

様々な自然の住民が地球の将来と人類の行く末を心配している。それぞれはこの地球に永い年月をかけて安定的かつ持続的で豊かな生態系を構築してきたが、今や世界の各地でその自然が変調をきたしている。その原因を過去の地球の歴史から遡って考えてみよう。

地球に生命が生まれない以前の自然は、大気や海、風など、物理的、化学的反応の世界であった。それでも太陽の入射と赤外線放射で大気は一定の温度で保たれ、海の水も循環することでほぼ保たれていた。無機的自然の時代といえるだろう。

次いで、生物が生まれた。生物は無機自然から生まれたが、個体制があることで無機自然とは異なり、命という特徴をもっている。しばらくすると、植物、菌類、動物など多様な生物の進化とともにその生と死によって各地に生態系が形成され、土壌の発達が進み、生態系の安定性も増してきた。生態系は一般に安定で持続的である。エコ的自然の時代といえるだろう。

そして、意識という脳が発達したヒトが生まれた。人は生物ではあるが、外部にエネルギーを見だし利用することを覚えて、生態系の住人として系の安定や持続性には制約されずに、かつ集団を社会化することで大いに繁栄した。しかし、大気には汚染や温暖化、海にはプラスチック汚染、森を伐採し、土壌を荒らし、そして多くの生物を消滅させるなど、今や地球の自然全体にまで大きな影響を与えるようになった。それは、人新生の時代といわれ、もはや地球の自然は安定的でも持続可能でもなくなってしまった。

持続的な環境でない地球で人類が生きる先はもはや宇宙しかない。漫画でも映画でもSF的宇宙が舞台になることが多いのはそんな危機感の表れなのかもしれない。しかし、現在の社会が一致して宇宙を目指せるだけの物理的、かつ社会経済的エネルギーをもちうるだろうか。なによりも人を人たらしめている根源の人々の意識を、この不安定、不透明な先の見えない世界において、宇宙という広大で未知なる世界に向けるだろうか。しかし、願わくば貧困や人権といった人類世界の諸課題を乗り越え、世界が自然との共存を果たして安定した持続的環境を獲得し、22世紀には人新世の次の時代である宇宙時代を始めることを期待している。

*ケストナー著「動物会議」を模して書いてみました。2023.1.10.